

4人に1人が「金融危機のおかげで人生の大切なものを認識」 「シノベイト お金に関する意識調査」

グローバル・マーケティング・リサーチ会社のシノベイトは、2009年8月、世界16ヶ国(日本は含まない)、11,400名を対象に、お金に関する意識調査を実施いたしました。

主な調査結果

- 不況はお金の使い方を変えた
- 不況の影響・・・買い物だけでなく、結婚や出産までも延期
- お金はあっても今は使わないで待つ
- 貯蓄と借金返済が最優先
- 4人に1人が「金融危機のおかげで人生の大切なものがわかった」



◆調査概要

実施機関: シノベイト

実施時期: 2009年8月

対象国(16カ国): オーストラリア、ブラジル、カナダ、デンマーク、フランス、香港、インド、マレーシア、ニュージーランド、ロシア、セルビア、南アフリカ、スペイン、台湾、イギリス、アメリカ

対象者: 11,400名

シノベイトは、16カ国の11,400人を対象に、世界的な金融危機発生から1年が経ち、人々のお金の管理スタイルや態度がどのように変わったかを調査した。

調査対象者の半数以上が金融危機の影響で貯蓄の重要性を認識するようになり、今後もその姿勢を持ち続けるつもりであることが明らかになった。また、22%は過去6ヶ月間に自分のお金に関して計画性をもつようになり、6%は子供を持つのを先延ばしにしたことがわかった。

1)不況はお金の使い方を変えた

この調査で、世界の人々がこの1年間にどのように行動し、銀行はいかに迅速に、また劇的に変わったかが明らかになった。

おおよそ4人に1人(26%)が以前に比べて現金を使う頻度が増え、逆に27%は少なくなったという結果が出た。南アフリカでは半数以上が以前よりも現金を使うようになったと答えた。シノベイト南アフリカで金融サービスセクターのヘッドを務めるアリシア・ガディンはこの結果について、お金の管理が原因だと分析している。「現金を使うほうが出費を抑えるためには良い方法です。現金であれば財布から出て行くのが見えます。多くの南アフリカ人がクレジットカードを解約して、買い物のために貯蓄するようになりました。」

クレジットカードは、この1年間で人気上昇した国と低下した国がある。全体の14%が1年前よりもよく使うようになり、18%が1年前よりも使わなくなっている。よく使うようになった国では、ブラジルが29%で最も多く、フランス(28%)とデンマーク(26%)が続いた。

シノベイト ブラジルでニュービジネスディレクターを務めるアリ・ゴンザレスはこれには2つの要因があると説明している。「強い金利低下の動きが多くの人にクレジットの有用性を認識させる結果になったことと、銀行やクレジットカード会社がプラスチックマネーの利点を示す大々的なキャンペーンを行ったことが影響したようです。」

小切手は消滅しかかっているが、これは世界的な金融危機のせいというよりはテクノロジーや効率性が原因であろう。全対象者の3%が1年前よりも頻繁に小切手を使っていると答え、20%が変わらない、17%が以前よりも使用頻度が低くなり、60%は全く使っていないと答えた。

シノベイト アメリカに本拠地を置き、金融サービス部門のシニアバイスプレジデントを務めるクレア・ピーターソン・ブレイバーマンは、アメリカ人はオンラインに移行していると述べている。「インターネットバンキングは小切手よりも費用がかかりませんし、自分で管理できる範囲も広がります。自動支払いは事前に計画を立てることができ、延滞料を防ぐことができます。今回の調査では、現在のような経済状況下では『塵も積もれば山となる』というように、少しの工夫でも節約の助けになるようにと、自分の家族のために努力する人々の姿が浮き彫りになりました。」

2) 不況の影響・・・買い物だけでなく、結婚や出産までも延期

調査では、人々がライフスタイルを変える決断をしなくてはならなかったことが明らかになった。ライフスタイルの面では5人に1人が過去6ヶ月間に海外旅行の予定を延期しており、トップはニュージーランドの37%、ロシア(35%)とスペイン(32%)がそれに続いた。「多くの人々にとって、不況は自分の国、ふるさとを見直すきっかけになりました。」と、シノベイト ニュージーランドのリサーチディレクターであるホルスト・フェルドハウザーは述べている。「今、ニュージーランド人は海外旅行よりも国内旅行をしており、自分の身近なところを見て楽しんでます。」

後回しにされるのは休暇だけではない。全体の15%は車を買うのを延期したり、より安い車を買ったりしている。この割合はブラジルで最も高く34%であった。ゴンザレスは「もしブラジル政府が車の価格引き下げ目的の報奨金を出さなかったならば、この割合はもっと高かったはずでしょう。」と述べている。

過去6ヶ月間に延期された、もしくは出費を少なくしたその他の決定は以下の通りである。

- 全体の10%が家の購入を延期した。国別ではブラジルが最も高く22%、続いてロシアの18%、ニュージーランドの16%だった。
- 全体の16%が家の増築、リフォームを延期した。その割合が最も高かったのはロシア(33%)で、セルビア(31%)とブラジル(30%)が続いた。
- 新しいテレビ、コンピューター、その他の大型家電の購入については、全体の23%が延期、もしくは当初の予定よりも低い価格のものを購入した。国別ではニュージーランドが39%で最も高く、ブラジル(37%)とスペイン(31%)が続いた。

また、予定の変更は個人的なことにも及んだ。全体の4%が結婚を延期、もしくはより少ない出費で済ませたと回答し、ブラジルが12%で最も高く、ロシアと台湾がどちらも7%で続いた。

シノベイト 台湾のマネージングディレクターであるジェニー・チャンは、台湾の消費者は近い将来、景気が回復することに確信が持てていないと述べている。「多くの台湾人は現在の世界的不況下で、計画の変更を余儀なくされています。例えば結婚、出産、引っ越し、転職、進学などを延期しているのです。比較的の不況の影響の少ない台湾経済においてでさえも、世界的不況の心理は多くの人々の行動を変えたのです。」

全体の6%が出産を先延ばしにし、この割合はブラジルが13%で最も高く、次いで南アフリカの12%、ロシアとスペインとともに10人に1人という結果であった。さらに、5%が過去6ヶ月間に手術を延期したと答え、この値もブラジルで最も高く13%、次いでスペインが8%、そしてデンマーク、フランス、アメリカ、ニュージーランドがそれぞれ7%で続いた。「アメリカの失業率は相対的に高く、家族に職を失った人がいる家庭では毎日、どの支払いをし、どの支払いはしないなど非常に困難な決定をしなくてはならないのです。このような決断に、緊急ではない手術はしないことも含まれているのです。」とブレイバーマンは述べた。

3) お金はあっても今は使わないで待つ

シノベイトの調査では、全体の39%が、お金がないのを理由に大きな買い物を延期したり、人生の決断を変えたり、出費を抑えたりしたが、他にもより興味深い理由があった。全16ヶ国の対象者の14%は実際にはお金はあるものの今は待つべきだと答え、11%はバーゲンを待つ、また11%は、今はお金をたくさん使うべき時ではないと回答した。つまり、使うお金はあるのに、あえて使わない方を選んでいる人たちがいるということだ。以下に各国のお金を使うことを延期した人たちの理由を示した。

- 十分なお金がない — セルビア(66%)、インド(62%)、ロシア(54%)
- 価格が下がるのを待っている、バーゲンを待っている — フランス(21%)
- 買うお金はあるが、待つ方が賢明だと思う — デンマーク(28%)、スペイン(23%)

- 使うよりも貯蓄する、投資する – マレーシア(22%)
- 今お金をたくさん使うのは良くないと思う – 香港(22%)、台湾(21%)
- 本当に必要ではない贅沢な品／出費だから – 香港(23%)、台湾(20%)

シノベイト インドのマネージングディレクターであるミック・ゴードンによると、インドでは基本的に人は買う余裕がないものは買わないのだと言う。「ここインドでは中流階級が成長著しく、他国よりも比較的景気は良いのですが、人は簡単に高額品を購入しません。本当に貯蓄を重んずる文化なのです。お金がなければ買いません。インド人はもしもの時のために貯蓄をします。必需品の購入以外でその貯蓄に手をつけることは滅多にありません。」

シノベイト フランスのディベロップメントディレクターを務めるアラン・デニスはフランス人のバーゲン好きが影響していると説明する。「フランス人はより安価で手に入れることができる時期まで待ちます。これは不況だからこのような行動を取るわけではありませんが、現在は以前よりもこの傾向が強まっています。」

香港人が大きな買い物を延期する理由は、香港という都市の文化的気質と一致するようだ。シノベイト 香港のマネージングディレクターであるブレンダン・シェアは以下のように述べている。「香港の大部分の消費者は今までと同じようにお金を使っていますが、経済危機で心理的に影響を受けた人たちもいます。彼らはあまり派手にお金を使うべきではないという社会的プレッシャーを感じているのです。座談会の参加者の中に、店で贅沢品を買って店員にそのブランドショップの紙袋ではなく、普通のビニール袋に入れてくれるよう頼んだと言った人がいます。景気が悪く、周りの人たちが沈んでいる時に、自分は考えもなくお金を使っている人間だとは見られたくないのです。」

4)貯蓄と借金返済が最優先

シノベイトは全16ヶ国の11,400人の対象者に1,000米ドルが偶然手に入ったらどうするかを尋ねた。この質問をした理由は、国によってどのようにお金を使う優先順位が違うかを明らかにするためである。

16ヶ国全体の優先順位は以下ようになった:

- 貯蓄のための預金として銀行に預ける – 28%
- 負債／借金を返す – 17%
- 食料品や日用品などの生活必需品に使う – 17%
- 何か楽しいことに使う – 15%

各回答のトップの国々は以下のとおり:

1,000米ドルが偶然手に入ったらどうしますか	
貯蓄のための預金として銀行に預ける	マレーシア(52%)、デンマーク／ブラジル(37%)
すぐに引きおろせる預金として銀行に預ける	インド(21%)
保険を契約する	インド(12%)
投資信託を購入する	セルビア(8%)
株を購入する	香港(9%)
負債／借金を返す	ニュージーランド(44%)、カナダ(40%)、オーストラリア／アメリカ(35%)
何か楽しいことに使う	ロシア(30%)、デンマーク(29%)
生活必需品に使う	セルビア(35%)、台湾(30%)
ギャンブル	回答した人はいなかった

シノベイト デンマークのマネージングディレクターであるクラウス・ミケルセンは、デンマークでは預金利率が高いので、この結果には驚かないと語っている。「OECDが個人消費に関する新しい統計結果を発表しましたが、それによると、OECDのメンバーの中で個人消費の低下率が最も大きかった国はデンマークでした。デンマークでは国民が課税控除を受けたり、政府が強制年金積立の支払いという臨時政策を導入しているにも関わらず、現在のところデンマーク人は非常に支出に消極的です。デンマーク人は使わず、貯めているのです。」

ニュージーランド、カナダ、オーストラリア、アメリカは経済の規模と構造に大きな違いがあるものの、消費者のお金に関する優先順位は非常に似ている。これらの国の経済では、個人の負債額のレベルが高く、私有財産所有の意欲が高く(そのため、大きな負債を背負う)、クレジットカードの使用が一般的である。シノベイト カナダのマネージングディレクターであるロブ・マイヤーズは、負債／借金を返すという回答が多かったことについて以下のように説明している。「カナダ人はこのような厳しい時には非常に保守的になります。銀行の預金利率が低く、投資市場の不確かな現在の状況では、カナダ人が負債を減らそうとするのは当然です。」

また、ブレイバーマンは付け加える。「アメリカ人は負債／借金を支払っており、2001年の不況以来、長い間見たことがないくらいの高い割合で貯蓄をしています。」

預金利率が再び上昇しているオーストラリアの状況について、シノベイト オーストラリアのマネージングディレクターであるジュリー・ピークが以下のように説明している。「オーストラリア準備銀行によると、過去18年間でオーストラリアの世帯が背負う負債の総額は約6倍に増加しました。クレジットカードの負債はわずかしこ上昇していませんが、世帯が背負う借金は特に収入と財産の伸び率と比較して著しく増加しました。オーストラリアでは再び利率が上昇し始めているので、人々は出来るだけ早く借金を支払ってリスクを減らそうと努力するでしょう。」

一方、ロシア人の30%は何か楽しいことに使いたいと答えた。

5) 4人に1人が「金融危機のおかげで人生で大切なものがわかった」

全対象者の4人に1人が自分の優先順位を認識するきっかけになったとして、世界的な金融危機が起こって良かったと答えた。半数以上(55%)が貯蓄の重要性を認識するようになり、今後もその姿勢を持ち続けると答えた。47%は以前のように自由にお金を使える時が来ることを心待ちにしていると答えた。今回の調査では、文章を示してどの程度そう思うか、思わないかを尋ねる形で、一連のお金への姿勢・態度に関する質問をしたが、80%ものマレーシア人が、金融危機が起こって良かったと答えた。

シノベイト マレーシアのマネージングディレクターであるスティーブ・マーフィは述べる。「もちろん、他の国々で起こった金融危機の否定的な結果を誰も望んではいませんが、ここマレーシアでは金融危機はそれほど悪いことではなかったのです。金融引き締め策の影響は実感されたものの、それによりマレーシアの伝統的な家族を大事にする価値観が強められ、今よりもっと得ようと努力するよりも、今持っているものの価値を認識するようになりました。」

イギリスでは「金融機関に対する私の信頼は劇的に低下した。」という文章に72%もの人が「そう思う」と答え、全体の52%という数字よりかなり高かった。45%のイギリス人は「今後、株式市場には投資しない」と答え、84%は「金融業界にもっと規制を強化すべきだ」と答えた。

金融&ビジネスサービスセクターのリサーチディレクターで、イギリスに拠点を置くスチュアート・タッグは、「不動産価格の暴落にもかかわらず、不動産市場に対する態度はあまり厳しいものではなく、45%が“今後不動産には投資しない”という文章に“そう思わない”と回答しました。イギリス人は金融サービス業界に対して高い不信感を持ち、自分たちのお金は不動産へ投資することを好んでいるようだ。」と述べた。

その他の結果:

- 58%が「経済危機以前のお金の使い方には戻らないよう努力するつもりだ」と答え、トップはマレーシアの80%、台湾と南アフリカが79%で続いた。
- 10人中7人が「隣人に自分が経済的に困難な状況にあるかどうかを知られたくない」と答え、最も多かったのは83%のブラジル、続いて台湾と香港がどちらも80%だった。
- 全体の84%が「次の世代のために国の暮らし向きを向上させるようにするのは各世代の責任だ」と信じており、ブラジル(97%)、台湾(93%)、マレーシア(92%)、セビリア(92%)でこの割合が高かった。

シノベイトについて www.synovate.com

シノベイトはAegis Group plcのマーケティング・リサーチ部門として、世界62カ国に広がるネットワークを駆使し、クライアントに必要なグローバル・サポートと総合的なマーケティング・リサーチ・サービスを提供しております。

[内容のお問い合わせ]

シノベイト株式会社 担当: 山口 真理子

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-19

TEL **03-5408-3853**

FAX **03-5408-3851**

E-mail **japan@synovate.com**

シノベイト マレーシアのマネージングディレクターであるスティーブ・マーフィは述べる。「もちろん、他の国々で起こった金融危機の否定的な結果を誰も望んではいませんが、ここマレーシアでは金融危機はそれほど悪いことではなかったのです。金融ひっ迫は実感されたものの、それによりマレーシアの伝統的な家族を大事にする価値観が強められ、今よりもっと得ようと努力するよりも、今持っているものの価値を認識するようになりました。」

イギリスでは「金融機関に対する私の信頼は劇的に低下した。」という文章に72%もの人が「そう思う」と答え、全体の52%という数字よりかなり高かった。45%のイギリス人は「今後、株式市場には投資しない」と答え、84%は「金融業界にもっと規制を強化すべきだ」と答えた。

金融&ビジネスサービスセクターのリサーチディレクターで、イギリスに拠点を置くスチュアート・タッグは、「不動産価格の暴落にもかかわらず、不動産市場に対する態度はあまり厳しいものではなく、45%が‘今後不動産には投資しない’という文章に‘そう思わない’と回答しました。イギリス人は金融サービス業界に対して高い不信感を持ち、自分たちのお金は不動産へ投資することを好んでいるようだ。」と述べた。

その他の結果:

- 58%が「経済危機以前のお金の使い方には戻らないよう努力するつもりだ」と答え、トップはマレーシアの80%、台湾と南アフリカが79%で続いた。
- 42%が「借金／負債を減らすよりも貯蓄を増やす方にもっと興味がある」と答えた。この割合が最も高かったのは台湾の83%、次いで香港(79%)、マレーシア(76%)だった。反対に、この割合が最も低かった、すなわち借金を払う方にフォーカスしているのは、ニュージーランドとロシアで、ともに77%、次いでカナダで74%だった。
- 10人中7人が「隣人に自分が経済的に困難な状況にあるかどうかを知られたくない」と答え、最も多かったのは83%のブラジル、続いて台湾と香港がどちらも80%だった。
- 全体の84%が「次の世代のために国の暮らし向きを向上させるようにするのは各世代の責任だ」と信じており、ブラジル(97%)、台湾(93%)、マレーシア(92%)、セビリア(92%)でこの割合が高かった。

シノベイトについて www.synovate.com

シノベイトはAegis Group plcのマーケティング・リサーチ部門として、世界62カ国に広がるネットワークを駆使し、クライアントに必要なグローバル・サポートと総合的なマーケティング・リサーチ・サービスを提供しております。

[内容のお問い合わせ]

シノベイト株式会社 担当: 山口 真理子

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-19

TEL **03-5408-3853**

FAX **03-5408-3851**

E-mail **japan@synovate.com**